

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（15）

都城志布志間高規格道路建設に伴う

埋蔵文化財発掘確認調査報告書

わらび  
蕨 の 野 B 遺 い 跡 せき

2001年3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

## 序 文

高規格道路を整備するにあたり、埋蔵文化財の包蔵地にあたるとわかったので、蕨野B遺跡を平成13年2月2日から平成13年3月22日までの間発掘調査をしました。調査面積は142m<sup>2</sup>になりました。

松山町新橋の南端に位置し、有明町と大隅町に隣接する堀之内遺跡はまほ場整備が実施されてしまはず、殆んどそのまで残っている畠地なので、何か重要な物が出土しないかと思っていましたが、案の定土器石器等が出土し今後の調査が必要な事が判明しました。今後の全面調査の結果に期待したいと思います。

最後になりましたが、積極的に発掘調査に従事していただいた方々、また精力的に御指導いただいた県教育庁文化財課、埋蔵文化財センターの先生方に厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

松山町教育委員会

教育長 金子末房

## 例　　言

1. 本報告書は、平成12年度に実施した都城志布志間高規格道路建設に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2. 発掘調査は県の受託事業として松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は上田義明が行った。
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値はすべて海拔絶対高である。
6. 本報告書の執筆・編集は上田義明が行った。
7. 発掘調査後の整理作業は松山町歴史民俗資料館で行った。
8. 出土遺物は、報告書作成終了後、松山町歴史民俗資料館で保管し、展示・活用する計画である。

## 報告書抄録

| わらびのいせき  |                              |   |             |      |
|----------|------------------------------|---|-------------|------|
| 書名       | 蕨野B遺跡                        |   |             |      |
| 副書名      | 都城志布志間高規格道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |   |             |      |
| 卷次       |                              |   |             |      |
| シリーズ名    | 松山町埋蔵文化財発掘確認調査報告書(15)        |   |             |      |
| シリーズ番    |                              |   |             |      |
| 編著者名     | 上田義明                         |   |             |      |
| 編集機関     | 松山町教育委員会                     |   |             |      |
| 所在地      | 〒899-7602 鹿児島県曾於郡松山町泰野3410番地 |   |             |      |
| 発行年月日    | 2001年3月31日                   |   |             |      |
|          |                              |   |             |      |
| わらびのいせき  |                              |   |             |      |
| 所収遺跡名    | 蕨野B遺跡                        |   |             |      |
| 所在地      | 鹿児島県曾於郡松山町新橋                 |   |             |      |
| 調査期間     | 2001.2.2~3.22                |   |             |      |
| 調査面積     | 142m <sup>2</sup>            |   |             |      |
| 調査原因     | 都城志布志間高規格道路建設                |   |             |      |
|          |                              |   |             |      |
| 主な時代     | 主な遺構                         | 主な遺物  | 出土量         | 特記事項 |
| 出土遺物・遺構等 | 縄文時代                         | 縄文時代 晩期<br>縄文時代 後期<br>縄文時代 中期<br>縄文時代 早期<br>旧石器時代 | パンケース<br>5箱 |      |

## 本文目次

序文  
例言  
報告書抄録

|     |            |   |
|-----|------------|---|
| 第1章 | 調査の経過      | 1 |
| 第1節 | 調査に至るまでの経過 | 1 |
| 第2節 | 調査の組織      | 1 |
| 第3節 | 調査の経過      | 1 |
| 第2章 | 遺跡の位置及び環境  | 4 |
| 第3章 | 層位         | 5 |
| 第4章 | 調査の概要      | 6 |
| 第1節 | 調査の概要及び結果  | 6 |
| 第2節 | 各トレンチの調査   | 8 |

## 挿図目次

|      |               |    |
|------|---------------|----|
| 第1図  | 蕨野B遺跡位置図      | 4  |
| 第2図  | 標準土層図         | 5  |
| 第3図  | 蕨野B遺跡トレンチ位置図  | 7  |
| 第4図  | 1トレンチ北壁層位断面図  | 8  |
| 第5図  | 2トレンチ東壁層位断面図  | 8  |
| 第6図  | 3トレンチ東壁層位断面図  | 9  |
| 第7図  | 4トレンチ南壁層位断面図  | 9  |
| 第8図  | 5トレンチ南壁層位断面図  | 9  |
| 第9図  | 6トレンチ南壁層位断面図  | 10 |
| 第10図 | 7トレンチ西壁層位断面図  | 10 |
| 第11図 | 8トレンチ南壁層位断面図  | 11 |
| 第12図 | 9トレンチ南壁層位断面図  | 11 |
| 第13図 | 10トレンチ東壁層位断面図 | 12 |
| 第14図 | 11トレンチ東壁層位断面図 | 12 |
| 第15図 | 12トレンチ南壁層位断面図 | 12 |
| 第16図 | 13トレンチ東壁層位断面図 | 13 |
| 第17図 | 14トレンチ西壁層位断面図 | 13 |
| 第18図 | 15トレンチ南壁層位断面図 | 13 |
| 第19図 | 16トレンチ南壁層位断面図 | 14 |
| 第20図 | 17トレンチ南壁層位断面図 | 14 |
| 第21図 | 18トレンチ北壁層位断面図 | 15 |
| 第22図 | 19トレンチ北壁層位断面図 | 15 |

## 図版目次

|     |                    |    |
|-----|--------------------|----|
| 図版1 | 第2トレンチ東壁層位断面       | 16 |
| 図版2 | 第6トレンチV層・VI層遺物出土状況 | 16 |
| 図版3 | 第5トレンチV層集石検出状況     | 17 |
| 図版4 | 第8トレンチIII層遺物出土状況   | 17 |
| 図版5 | 第10トレンチVII層遺物出土状況  | 18 |
| 図版6 | 第11トレンチIII層遺物出土状況  | 18 |

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県土木部（大隅土木事務所）は、曾於郡松山町新橋蕨野工区において都城志布志間高規格道路建設を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化財課に照会した。

これをうけて、平成9年4月、県文化財課で当該地区的分布調査を実施したところ、工事予定区域内に蕨野B遺跡の存在していることが確認された。この結果に基づき、松山町教育委員会が調査主体となって、遺跡の範囲・性格等を把握するための確認調査を実施することになった。

発掘確認調査は、鹿児島県土木部（大隅土木事務所）からの受託事業として県文化財課の協力を得て、平成13年2月2日から平成13年3月22日まで実施した。調査面積は計142m<sup>2</sup>である。

## 第2節 調査の組織

|         |          |                 |           |
|---------|----------|-----------------|-----------|
| 調査主体者   | 松山町教育委員会 | 教 育 長           | 金 子 末 房   |
| 調査責任者   | 松山町教育委員会 | 教 育 課 長         | 迫 田 正 弘   |
| 調査事務担当者 | タ        | 教 育 課 長 补 佐     | 福 留 栄 行   |
|         | タ        | 参 事 兼 指 導 主 事   | 東 口 信     |
|         | タ        | 主 査             | 後 藤 由 紀 子 |
|         | タ        | 派 遣 社 會 教 育 主 事 | 河 原 橋 憲 章 |
|         | タ        | 主 事             | 吉 元 裕 二   |
|         | タ        | 主 事             | 上 田 明 義   |
|         | タ        | 主 事             | 佐 々 木 剛 生 |
|         | タ        | 社会 教 育 指 導 員    | 本 村 典 生   |
|         | タ        | 庶 務 係           | 早 崎 ゆ う 子 |
| 調査担当者   | 松山町教育委員会 | 主 事             | 上 田 義 明   |

## 第3節 調査の経過

- 2月2日（金） 調査開始。調査器具の搬入。発掘調査についての説明。重機を使って表土を溝状に堀下げ、第1・第2・第3トレンチ設定。
- 2月5日（月） 第1トレンチは表土直下が2層で、遺構等が確認された。第2トレンチは表土直下がⅡ層で、縄文時代中期から後期にかけての土器片出土。第3トレンチは表土直下がⅣ b 層で出土遺物なし。埋蔵文化財センター中村耕治主任文化財主事現場指導のため7日まで来跡。
- 2月6日（火） 第1トレンチⅢ層面掘り下げ。土器片出土。第2トレンチⅢ層面掘り下げ、3層面を堀り込んだピット検出。確認のためトレンチを横に約1m広げる。第3トレンチⅣ b 層掘り下げ。出土遺物なし。

- 2月8日（木） 第1トレンチIV層面掘り下げ。II層・III層遺物出土状況実測。写真撮影。IV層面出土遺物なし。第2トレンチ横に広げてピットを確認したが関連性は認められなかったので、そのままIII層面掘り下げ。土器片出土。第3トレンチV層・VI層面掘り下げ、出土遺物なし。
- 2月9日（金） 第1トレンチV層面掘り下げ。土器片出土。第2トレンチIV層掘り下げ。II層・III層遺物出土状況実測。写真撮影。第3トレンチVII層・VIII層掘り下げ。出土遺物なし。第4・第5・第6トレンチ設定。
- 2月13日（火） 第1トレンチVI層・VII層掘り下げ出土遺物なし。V層遺物出土状況実測。写真撮影。第トレンチV層掘り下げ。土器片出土。第3トレンチVII層掘り下げ、シラス面検出。出土遺物なし。第4トレンチ表土直下のIV b層を掘り下げ。出土遺物なし。
- 2月14日（水） 第1トレンチVII層掘り下げ。黒曜石1点出土。第2トレンチV層・VI層掘り下げ。土器片出土。第4トレンチV層掘り下げ出土遺物なし。第6トレンチ表土直下のV層を掘り下げ。土器片出土。
- 2月15日（木） 第1トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。第2トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。第4トレンチVI層掘り下げ出土遺物なし。第6トレンチVI層掘り下げ。土器片出土。
- 2月16日（金） 第2トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。第4トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。第6トレンチV層・VI層遺物出土状況実測。写真撮影。第5トレンチ表土直下のII層・III層掘り下げ。土器片出土。第7・第8トレンチ設定。
- 2月19日（月） 第4トレンチVII層掘り下げ。黒曜石出土。第5トレンチIII層面を掘り込んだピット数基検出。性質を確認するため、トレンチを約1m横に拡張する。第6トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。
- 2月20日（火） 第4トレンチVII層遺物出土状況実測。写真撮影。第5トレンチ拡張するもピットの関連性は確認できず、そのままIII層面掘り下げ。第6トレンチVII層掘り下げ。石器出土。第7トレンチ表土直下のIV b層掘り下げ。土器片出土。
- 2月21日（水） 第5トレンチIV層掘り下げ。土器片出土。IV層遺物出土状況実測。写真撮影。第7トレンチIV b層面で土層の横転現象確認。第8トレンチ表土直下のIII層掘り下げ。出土遺物なし。第9・第10トレンチ設定。
- 2月22日（木） 第8トレンチIV層・V層掘り下げ。V層より土器片出土。第9トレンチ表土直下のII層掘り下げ。出土遺物なし。
- 2月23日（金） 第8トレンチV層・VI層掘り下げ。土器片出土。第9トレンチIII層・IV層掘り下げ。第10トレンチ表土直下のVII層掘り下げ。石器多数出土。第11・第12・第13トレンチ設定。第11トレンチ表土直下のIII層掘り下げ。土器片出土。
- 2月26日（水） 第8トレンチV層・VI層遺物出土状況実測。写真撮影。VII層掘り下げ。

- 第13トレンチ表土直下のⅧ層を掘り下げ。出土遺物なし。第14トレンチ設定。表土直下のⅣb層を掘り下げ。出土遺物なし。埋蔵文化財センター堂込秀人文化財主事現場指導のため来跡。第10トレンチⅨ層遺物出土状況実測。写真撮影。
- 2月27日（水） 第8トレンチⅦ層・Ⅷ層掘り下げ。Ⅷ層より石器出土。第13トレンチⅨ層掘り下げ。出土遺物なし。第14トレンチV層・VI層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチ設定。
- 3月1日（木） 第9トレンチV層・VI層・VII層掘り下げ。出土遺物なし。第12トレンチ表土直下のIVb層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチ表土直下のII層掘り下げ。出土遺物なし。
- 3月2日（金） 第9トレンチⅨ層層掘り下げ。出土遺物なし。第12トレンチV層・VI層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチⅢ層・IV層掘り下げ。出土遺物なし。第16トレンチ表土直下のⅢ層掘り下げ。出土遺物なし。
- 3月5日（月） 第12トレンチVI層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチV層掘り下げ。土器片出土。第16トレンチIV層掘り下げ。出土遺物なし。第17トレンチ設定。表土直下のII層掘り下げ。出土遺物なし。
- 3月6日（火） 第12トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチVI層掘り下げ。土器片出土。V層・VI層遺物出土状況実測。写真撮影。第16トレンチIV層掘り下げ。
- 3月12日（月） 第12トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチVI層掘り下げ。出土遺物なし。第16トレンチV層掘り下げ。石器1点出土。
- 3月13日（火） 第12トレンチⅨ層掘り下げ。出土遺物なし。第15トレンチⅨ層・Ⅹ層掘り下げ。出土遺物なし。第16トレンチVI層掘り下げ出土遺物なし。
- 3月14日（水） 第18・第19トレンチ設定。第15トレンチⅨ層掘り下げ。出土遺物なし。第8トレンチⅨ層遺物出土状況実測。写真撮影。第16トレンチVII層掘り下げ。出土遺物なし。
- 3月15日（木） 第18トレンチ表土直下のIVb層を掘り下げ。出土遺物なし。第5トレンチV層掘り下げ。集石を検出。集石出土状況実測。写真撮影。
- 3月16日（金） 第18トレンチV層掘り下げ。土器片出土。第5トレンチV層掘り下げ。出土遺物なし。第17トレンチⅢ層・IV層掘り下げ。出土遺物なし。
- 3月19日（月） 第18トレンチVI層掘り下げ。土器片出土。第19トレンチ表土直下のⅨ層掘り下げ。出土遺物なし。第17トレンチV層・VI層掘り下げ。出土遺物なし。
- 3月21日（水） 第18トレンチVII層・Ⅸ層掘り下げ。出土遺物なし。V層・VI層遺物出土状況実測。写真撮影。第19トレンチⅨ層掘り下げ出土遺物なし。第17トレンチⅨ層・Ⅹ層掘り下げ出土遺物なし。
- 3月22日（木） 第18トレンチVII層・Ⅸ層掘り下げ。出土遺物なし。午後から機材搬出。全調査終了。

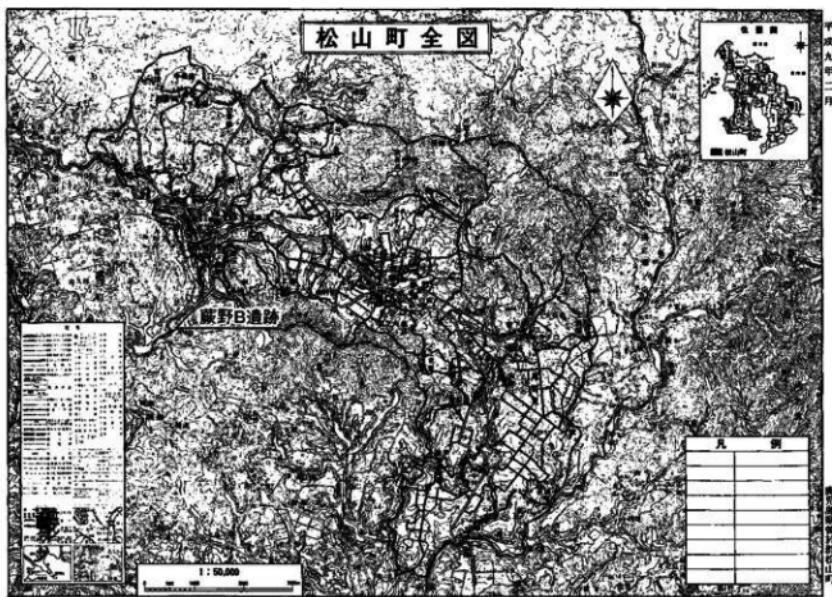
## 第2章 遺跡の位置及び環境

蕨野B遺跡のある松山町は、大隅半島曾於郡のほぼ中央部に位置し、東西に細長く東西12km、南北4kmである。東は志布志町、西は大隅町、南は有明町・志布志町、北は末吉町に境している。

経緯度は東経13度から13度7分、北緯31度37分で、町総面積は49.69km<sup>2</sup>であり、山岳は末吉町に境する宮田山520m、有明町に境する霧岳408mが主な丘陵で、河川は大隅町岩川から新橋河床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と、尾野見排水東端と大統東端を流れる安楽川の支流が主な河川である。気温は年間平均16.5度で西部台地と東部台地とでは年間平均気温が1度から2度の差があり、西部台地は一般的に霜が早く10月中旬には、初霜を見ることがある。晩霜は4月下旬で終わる。夏期における気温の変化は大差なく、最高36度くらいである。降雨量は平均2,190mmで中でも5月、6月の梅雨期と、8月9月の台風襲来時に集中するためシラス台地にある耕地

等においては土の流失、埋没浸食の被害もある。

今回の調査を行った蕨野B遺跡は松山町西端に位置する新橋地区にあり、新橋地区の南端で、南は有明町、西は菱田川を挟んで大隅町になる。遺跡の西には財部町から大崎町に至る曾於郡を縦断する広域農道(そお街道)があり、霧岳から伸びた台地の舌状地になっている。今まで発掘調査が行なわれていない地域で、今回がはじめての調査になる。



第1図 蕨野B遺跡位置図

### 第3章 層位

本遺跡の標準的な層位は、場所によって削平などによる欠落があるが、おおよそ次のようになっている。

I層 表土・耕作土。黒色の火山灰土で、大隅半島に普遍的に見られる「クロボク」とよばれるものである。

IIa層 黒色土層。重機による整地によって形成された旧耕作土である。主に調査区域の中心に位置する第2・第3・第5トレーニングで確認できる。

II b層 暗褐色土層。旧耕作土である。

III層 明黄褐色軽石質火山灰土層。きわめて淘汰のよい直径5mm前後の黄褐色軽石を含み、サラサラしている。霧島火山御池軽石層に対比できるものと思われる。

IV a層 褐色腐食火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石を多く含む。IV b（アカホヤ）層の二次堆積層とおもわれる。

IV b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさずV層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤ層に対比できる。

V層 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。

VI層 黒褐色腐食土層。直径5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。V層との境は不明瞭で漸移している。

VII層 黄褐色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、VI層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。

VIII層 黒褐色を呈する粘性の強い火山灰土で“チョコ層”とも俗称される。

IX層 淡黄褐色火山灰土層。粘質化した二次シラス層である。の遺物包含層、VII層は旧石器時代の遺物包含層である。

上記のなかで遺物包含層はII b層とIII層、IV a層、V層、VI層、VII層である。II b層は縄文時代晩期の包含層、III層・IV a層は縄文時代後期・中期の包含層で、V層・VI層は縄文時代早期の遺物包含層、VII層は旧石器時代の遺物包含層である。

第2図 土層模式柱状図

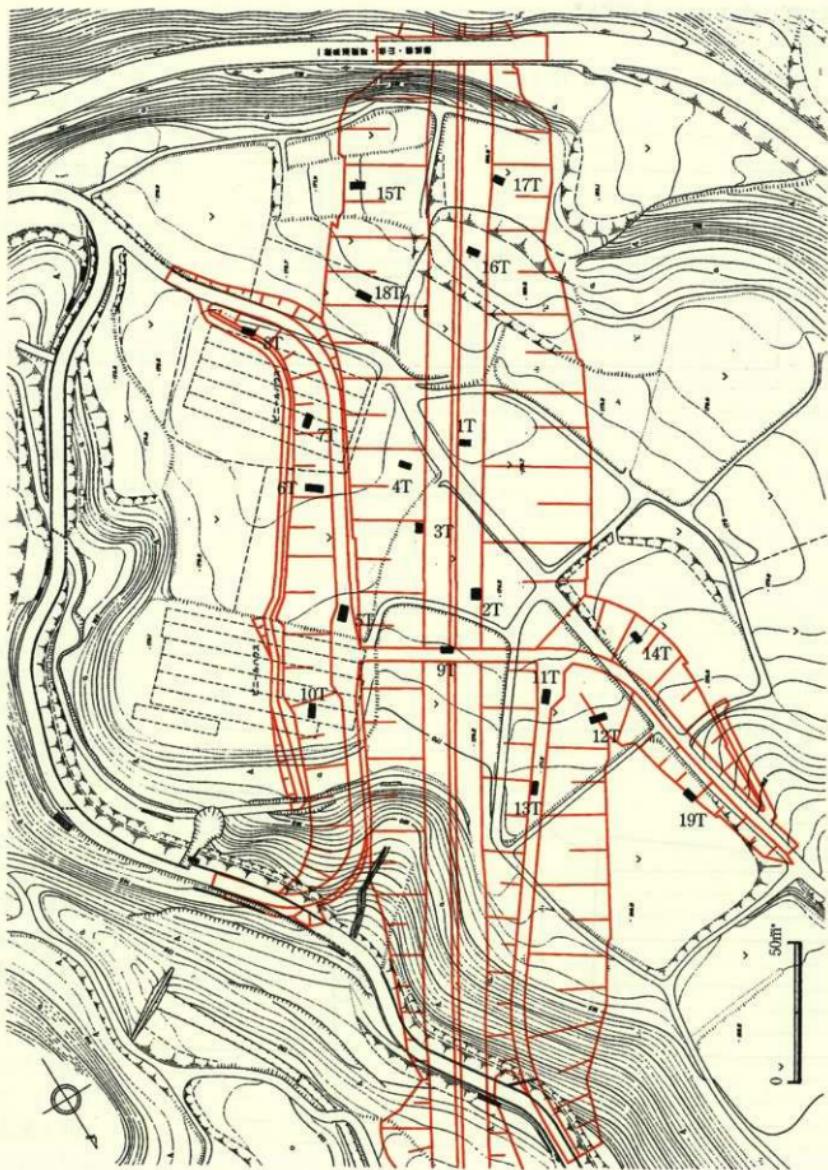
## 第4章 調査の概要

### 第1節 調査の概要及び結果

調査区域は、松山町新橋蕨野集落にあり、標高約175m～165mで新橋地区の南端に位置し、南が有明町、西は菱田川を挟んで大隅町が隣接し、霧岳から伸びる台地の舌状地に位置する。財部町から大崎町に至る曾於郡を縦断する広域農道(そお街道)に隣接する地点である。新橋地区に、蕨野B遺跡に最も近い地点で、過去に発掘調査が行なわれたのは、蕨野集落から約1km離れた草ノ瀬集落に所在する稗ヶ迫遺跡である。しかしこの時には遺物の出土は無く、遺物遺構の出土例がある発掘調査は新橋地区の北側に集中している。特に今回の高規格道路都城志布志間道路建設事業の予定区域のすぐ近くに所在する井手間遺跡においては弥生時代の花弁型住居跡が出土するなど、学術的に松山町の古代史を解明するための重要な資料が多数発見されている。今回の調査は、今まで発掘調査の事例がない新橋地区の南側に位置する蕨野で行なわれるものである。

確認調査は遺跡の全体像を把握するため表土を重機を使って溝状に剥がし、表土以下の層の状況と地形を考慮しながら、2m×4mの大きさのトレンチ基本にして、19箇所にトレンチを設定して行なった。この調査は道路建設に伴うものため、シラス面が検出されるまで掘り下げて行なった。その際、表土からの深くなるにつれて、安全のためトレンチの面積を縮小しながら調査を行なった。

その結果、蕨野B遺跡の遺物包含層は以下の3つに分かれ。アカホヤ層の上に位置するⅡ層・Ⅲ層の縄文時代晚期と中期後半のもの。この層は厚い所では40cm、薄い所では20cmで、平均30cmの厚さである。面積は約7,400m<sup>2</sup>である。この縄文時代晚期の遺物が分布するのは第5トレンチのある北東側で、縄文時代中期後半の遺物が多く分布するのは分布範囲の北側である。特に第2・第11トレンチから多く出土している。アカホヤ層とサツマ層の間に位置する縄文時代早期もの。この層は厚い所では70cm、薄いところでは30cmで広がり、平均50cmの厚さで堆積している。面積は約17,800m<sup>2</sup>である。縄文時代早期の遺物は分布範囲の南東側に多く分布する。サツマ層の下に位置する旧石器時代のもの。この層は厚いところで60cm、薄い所では30cm、平均40cmの厚さで堆積している。面積は12,000m<sup>2</sup>である。この遺物包含層は上層と下層に分かれ、下層のものは10トレンチに集中しており、上層のものは平均的に包含層範囲内に出土する。遺物出土量から検討すれば、上層のものはまばらに全体的に広がるのに対し、下層のものは狭い範囲に多数出土する傾向がある。今回の確認調査の結果、蕨野B遺跡は縄文時代晚期から旧石器時代にわたる複合遺跡であることがわかった。また、第1トレンチ付近では、Ⅲ層を掘り込んで溝状の遺構が多数検出されたが、調査の期間の問題上埋土を堀り上げなかっただため、その性質は不明であるが埋土の状況から考慮すると、近世のものと思われる。また、第5トレンチでは縄文時代早期のものであると思われる集石が検出されているが、その密度は低く、第5トレンチ周辺に集積が存在する可能性が高い。第7トレンチではⅣa層面で土層の横転現象が確認された。なお、今回の調査で遺物が出土しているがその掲載は本調査において行なうものとする。



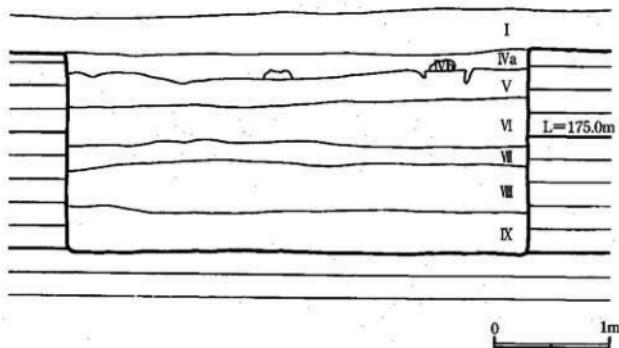
第3図 萩野B遺跡トレンチ位置図

## 第1節 各トレンチの調査

### 第1トレンチ

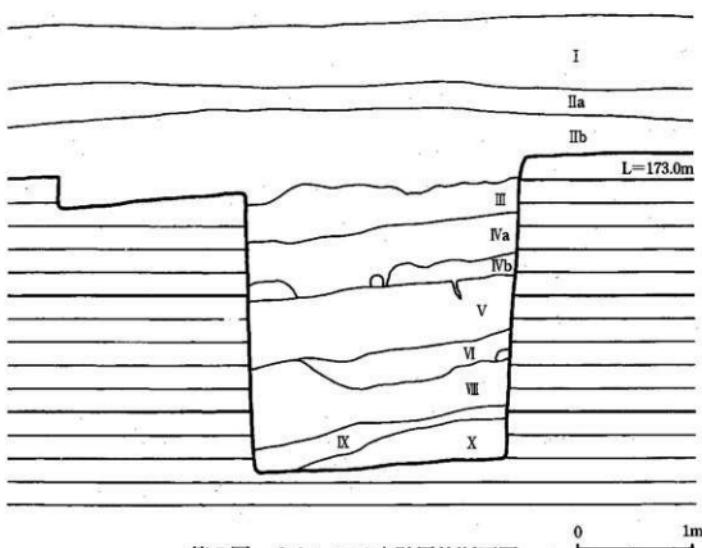
標高約175mで、調査区内のほぼ中心部に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下は

II b層で、層の残りはよく、全体的に均等に堆積している。第1トレンチ付近のⅢ層面を掘り込んだ溝状遺構が多数検出されている。また、V・VI層より前平式土器などの縄文早期時代の遺物が出土した。更にⅦ層より黒曜石が一点出土した。遺構は検出されなかった。



第4図 1トレンチ北壁層位断面図

### 第2トレンチ

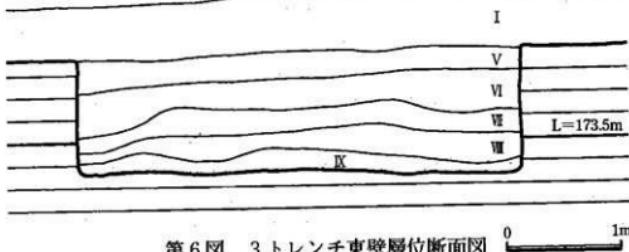


第5図 2トレンチ東壁層位断面図

標高 約  
175mで、調  
査区内のほぼ  
中心に位置す  
る2m×4mの  
トレンチであ  
る。全体的に  
北東側に傾斜  
して堆積して  
いる。表土直  
下は II a層  
で、層の残り  
は非常によく、  
特に II 層  
が非常に厚い。  
II b層より  
縄文時代中  
期後半の土器

### 第3トレンチ

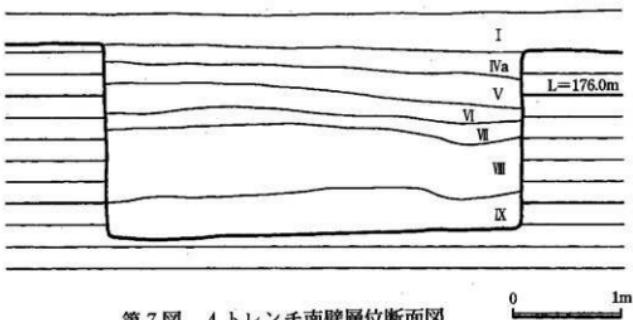
標高約175mで、第2トレンチから約30m南に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はIV b層でII層、III層は既に削平されていた。全体的に北東側に傾斜している。出土遺物は無かった。過去に個人的な畑地の造成が行なわれたようである。



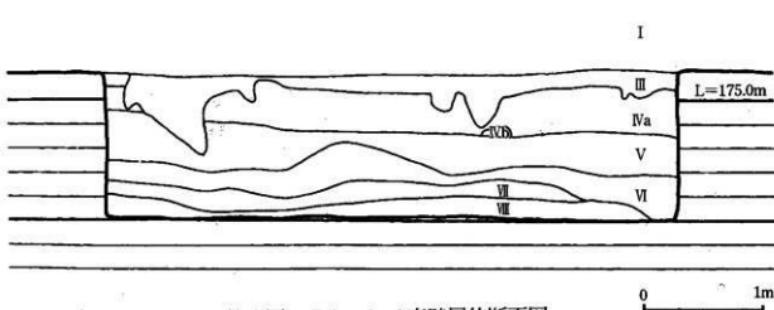
第6図 3トレンチ東壁層位断面図

### 第4トレンチ

標高約176mで、第3トレンチから南南西に約20mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はIV b層でII層、III層は既に削平されていた。全体的に水平に堆積しているが、この畑地も過去に個人的な造成が行なわれたようである。V層より土器が出土しており、V層からは黒曜石が出土した。



第7図 4トレンチ南壁層位断面図



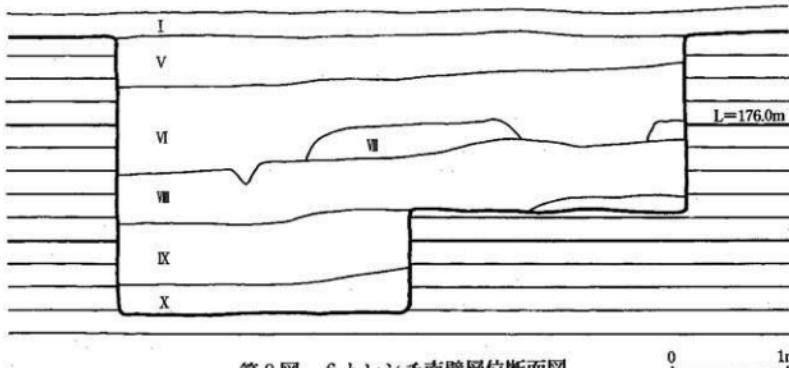
第8図 5トレンチ南壁層位断面図

### 第5トレンチ

標高約175mで、第4トレンチが所在する畠地の北東端に位置する3m×4mのトレンチである。表土直下はⅡ層で、全体的に層の残りは良い。第Ⅱ b層より縄文時代晚期の土器片が出土し、第Ⅲ層を掘り込んでピットが数基確認されたが、その関連性は認められず、性格を把握できなかった。またV層より集積が検出されたが、その密度は低くトレンチの周辺に存在する可能性が高い。旧石器の範囲が第5トレンチの北東側にある第10トレンチで把握できたため、第5トレンチはVI層以下は掘り下げなかった。

### 第6トレンチ

標高約176mで、第4トレンチから南東に30mの地点に位置する2m×5mのトレンチである。表土直下はV層で、北東側に傾斜して堆積している。V層、VI層から縄文時代早期の土器が出土し、VII層からは石器が出土している。

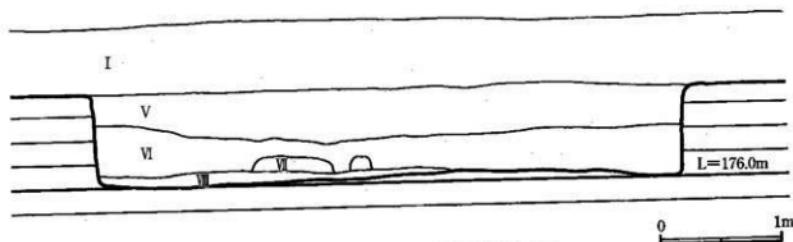


第9図 6トレンチ南壁層位断面図

0 1m

### 第7トレンチ

標高約176mで、第6トレンチから西南西に約20mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はIV a層で全体的に水平に堆積する土層である。IV a層から土器片が出土している。また土層の横転現象が確認された。第7トレンチから約40m南に位置する第8トレンチのV層、VI層、VII層から遺物の出土が確認されているため、第7トレンチではV層以下は掘り下げなかった。

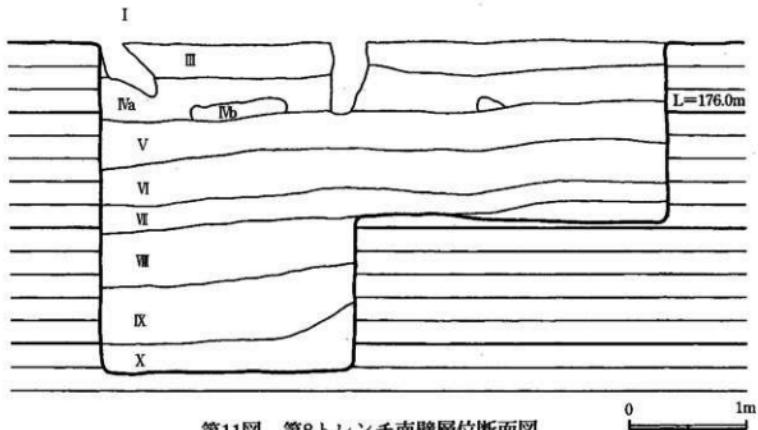


第10図 7トレンチ西壁層位断面図

0 1m

### 第8トレンチ

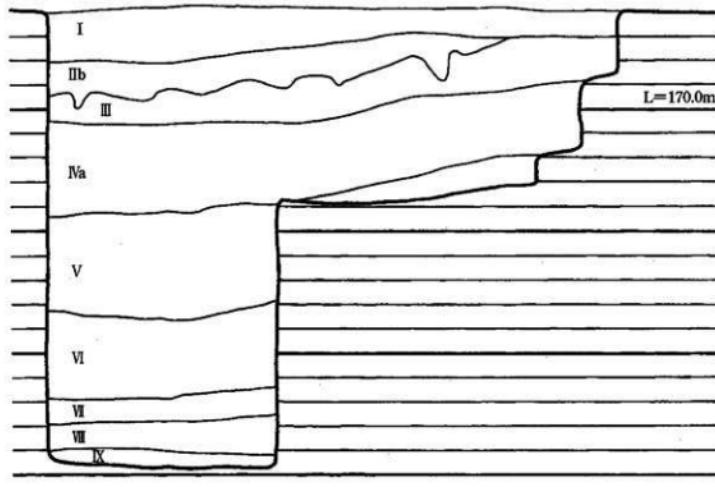
標高約176mで、第7トレンチから約40m南に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はⅢ層で、層の残りは良く全體的に厚い。V層、VI層から縄文時代早期の土器片が多数出土し、VII層からは石器が出土している。



第11図 第8トレンチ南壁層位断面図

### 第9トレンチ

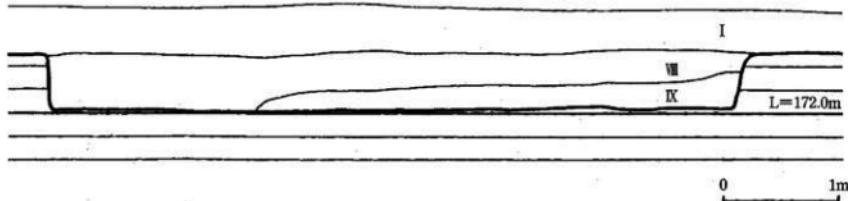
標高約172mで、第2トレンチから東北東に約20mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はⅡ層で、全體的に層の残りは良く厚い。Ⅲ層からV層まで掘り込んだピット



第12図 9トレンチ南壁層位断面図

### 第10トレンチ

標高約174mで、調査区内の北東端に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はⅧ層で、殆んど削平を受けている。Ⅷ層より石器及び薄片が多数出土している。

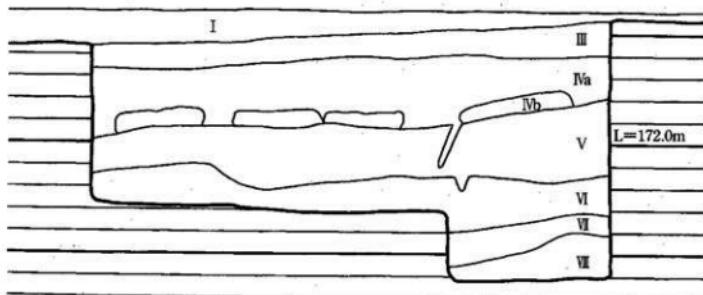


第13図 10トレンチ東壁層位断面図

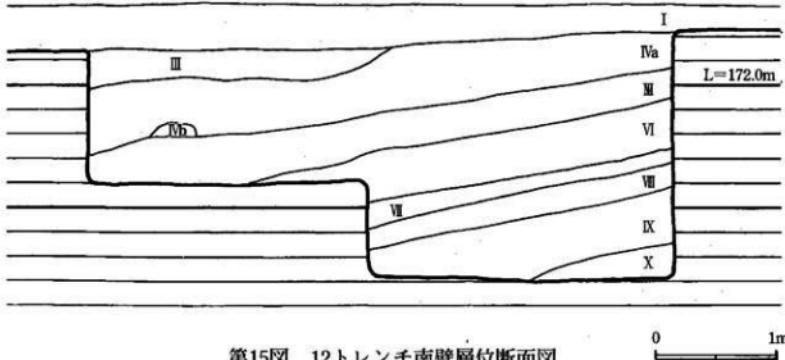
### 第11トレンチ

標高約173mで、第2トレンチから北に約40mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はⅢ層で、全体的に北東に傾斜して堆積する土層である。Ⅲ層より縄文時代中期後半の土器

が出土し、V層より縄文時代早期の土器が出土している。



第14図 11トレンチ東壁層位断面図



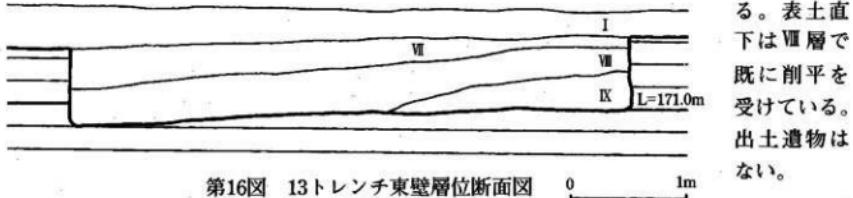
第15図 12トレンチ南壁層位断面図

### 第12トレンチ

標高約173mで、第2トレンチから北北西に約20mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。全体的に北東に傾斜して堆積する土層である。表土直下はIV a層である。遺物は出土していないが、トレンチの隣の溝状に掘った場所のⅢ層から土器片が出土している。

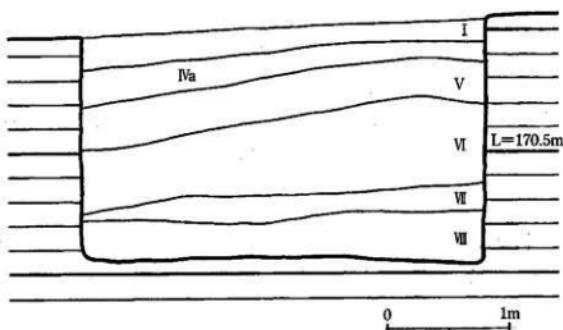
### 第13トレンチ

標高約172mで、第11トレンチから北東に約30mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。

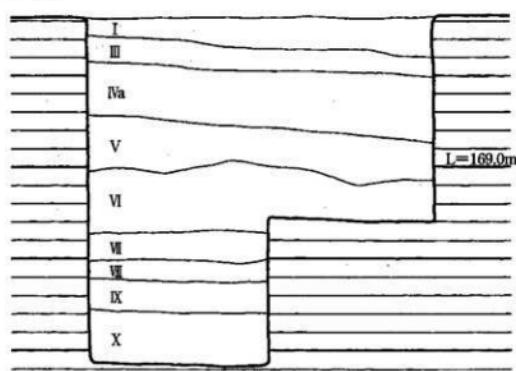


### 第14トレンチ

標高約172mで、第12トレンチから西南西に約30mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はIV b層で全体的に北側に傾斜して堆積する土層である。出土遺物はない。



第17図 14トレンチ西壁層位断面図



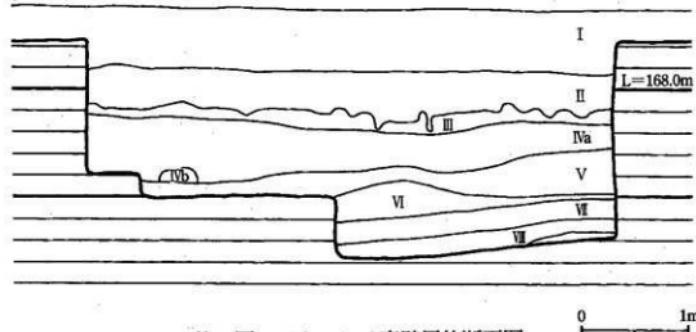
第18図 15トレンチ南壁層位断面図

### 第15トレンチ

標高約171mで、調査区内の南端に位置する2m×5mのトレンチである。表土直下はII b層で今回の調査区内でも、二番目に低い場所に位置するため、全体的に土層の残りが良く厚い。V層、VI層より縄文時代早期の土器が多数出土している。遺構等は確認できなかったが、遺物の出土量から考えると何らかの遺構の存在も期待できる。

第16トレンチ  
標高約170m  
で、第15トレンチから北北西に約40mの地点に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はIVa層で、全体的に南西に傾斜する地形である。V

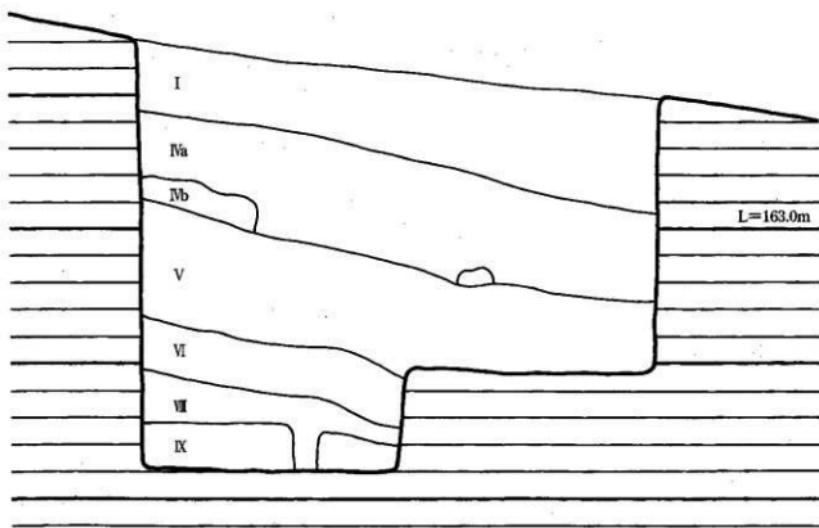
層より石器が一点出土している。



第19図 16トレンチ南壁層位断面図

#### 第17トレンチ

標高約165mで、第16トレンチから南西に約20mの調査区内の北西端に位置する2m×4mのトレンチである。層の残りは良いが全体的にかなり北西に傾斜する土層である。出土遺物はない。

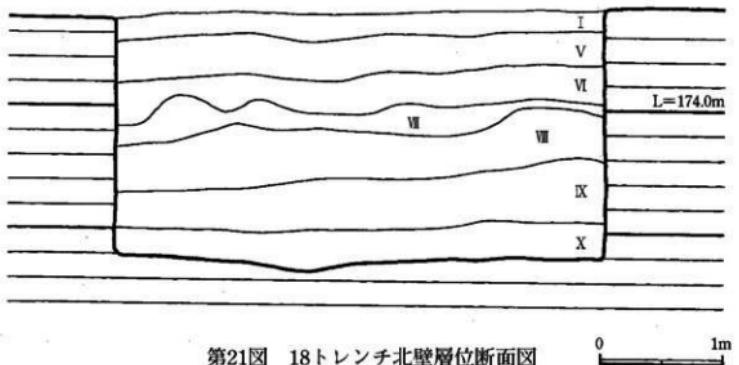


第20図 17トレンチ南壁層位断面図

### 第18トレンチ

標高約175mで、第15トレンチから北北東に約40mの地点に位置する2m×5mのトレンチで

ある。表土直下はⅣa層で、全体的に南西側に傾斜して堆積している。V層、VI層より縄文時代早期の土器が出土している。

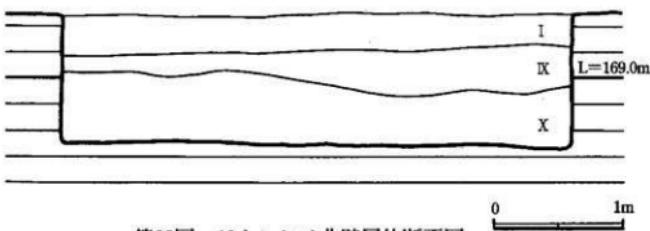


第21図 18トレンチ北壁層位断面図

0 1m

### 第19トレンチ

標高約170mで、調査区内の北端に位置する2m×4mのトレンチである。表土直下はⅨ層で既に削平を受けている。出土遺物はない。



第22図 19トレンチ北壁層位断面図

0 1m



図版1 第2トレンチ東壁層位断面



図版2 6トレンチV層・VI層遺物出土状況



図版3 遺物出土状況（2）



図版4 層位断面



図版5 第10トレンチⅢ層遺物出土状況



図版6 第11トレンチⅢ層遺物出土状況

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（15）

都城志布志間高規格道路建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

**蕨野B遺跡**

発行 松山町教育委員会

〒899-7692

鹿児島県曾於郡松山町新橋268番地

TEL(0994)87-2111 FAX(0994)87-2593

印刷 有限会社 志布志新生社印刷